

# 音楽に関する社会人・学生の意識調査

A Survey of Public Opinion on  
Music—Students and Adults

酒 井 諄

データ集計協力 中筋 伸子  
図表作成 塚本美奈子

## はじめに

現代会社における音楽現象や音楽活動の多様化にともない、人々の音楽に対する志向や考え方も、殆ど把え難いほどに錯雑した様相を呈しているように思われる。

音楽大学——現状ではその大多数がヨーロッパ系芸術音楽の追創造（演奏）か制作・理論にその精力を傾け尽している——に関係するものの一人としても、上記のような動向に一切無関心であることは出来ないはずである。むしろ社会全般の音楽志向は、ヨーロッパ・クラシック音楽よりも、歌謡曲・民謡や、特に青少年層においていわゆるポピュラー系の各種の音楽に、圧倒的多数の割合いで向けられているといえるだろう。

このような見地から、現代社会における音楽の在り方や人々の意識傾向の一端を探り、かつ反省に資するため、相愛女子大学音楽学専攻の昭和54年度セミナーの一つとして、標記のような意識調査を試みた。同年度末に、セミナーの学生各自により、その一部データの検出を試みたが、改めて本調査全体を取りまとめ、その概要をここに報告する。

## 1. 問題の設定

調査事項の編成に当っては、音楽大学の関係者として調査を行なう側の立場から、人々の、いわゆるクラシック音楽に関連した経験や意見を軸としながら、対応的にポピュラー音楽その他のものに関する事項を併合する、という方式をとった。

社会学専攻の場合のように、適確・厳密な調査研究の方法論に即して、というわけにはいかないまでも、一応社会調査の在り方についての概括的な理解をもとに、次のような手順をとった。まず、セミナー所属学生（音楽学専攻4回生8名）各自が、調査したいと考える項目を提出し、更にそれを質問形式にまとめ、次いで共同討議によって項目の重複や補充の調整を行ない、また質問形式や使用語句の統一をはかった。質問票については、回答者側の煩をさけるた

音楽に関する社会人・学生の意識調査

め、すべて「選択肢法」をとった。

このように意見に関する項目を整理した上で、回答者個人に関する諸カテゴリーの部分と、音楽に関する経験や嗜好の項目若干を附して質問票(アンケート用紙)を作成した。(末尾附録参照)

2. 調査対象(サンプル構成)とデータ蒐集の方法

上記のようにして作成した質問票を一たん配布の上、後日改めて回収(「配票調査」)した。対象を大別して、社会人、一般大学生、音楽大学生の3種、何れも京阪神地区在住者とした。(注) 経費・期間・作業力などいろいろの制約もあり、質問票の配布回収については、セミナー関係者以外の多くの人々の協力をいただいた結果、相当数のサンプルを集めることが出来た。従って、今回の調査は本来的な「無作為抽出法」には当たらないが、或程度一般的な傾向を知り得る資料といえるのではないかと思う。

- (注) 社会人：大阪府、兵庫県の中学校6校の生徒父兄の一部および数十名の本学音楽学専攻学生による個人配布による。
- 一般大学生：京阪神地区の諸大学(25大学)の各学部学生
- 音楽大学生：同上の7大学音楽学生

I 次の項目中、あなた自身の該当するものに○をつけて下さい。

(回答者数の集計)

(※表や図の番号は通し番号で表示)

社会人(全764人)

表1※

性別	年齢層						
	20 ~ 30 才	31 ~ 40	41 ~ 50	51 ~ 60	61 以上	不明	合計
男	31人	56	162	48	13	0	310人
女	54	147	167	33	4	12	417
不明	4	7	12	0	0	14	37
計	89	210	341	81	17	26	764

(備考) 年齢層区分は、30代、40代と言うためには30~34才、35~39才、40~44才と区分すべきであった。

社会人(全764人)の男女別・職業別人数

表2

性別	職業											計
	会(事務系)社員	会(技術系)社員	教員	自営業	農林漁業	サ自(自由)ビス業業	家庭婦人	無職	その他	不明		
男	70人	85人	17人	62人	6人	21人	0人	2人	26人	21人		310人
女	43	10	16	21	3	18	260	15	20	11		417
不明	5	4	2	5	0	2	2	0	1	16		37
計	118	99	35	88	9	41	262	17	47	48		764

音楽に関する社会人・学生の意識調査

一般大学生 (全897人)

表3

学部系 性別	文化系 (法・経・文学部)	理科系 (工・医・理・農学部)	家政・被服学科その他	不明	合計
男	182人	145	4	2	333人
女	388	15	145	2	550
不明	8	6	0	0	14
計	578	166	149	4	897

音楽大学生 (全620人)

表4

専攻 性別	声楽	ピアノ	管弦打楽器	作曲	音楽学	その他	専攻不明	合計
男	7人	2	2	7	3	12	0	33人
女	171	198	22	18	80	81	5	575
不明	2	2	0	2	1	5	0	12
計	180	202	24	27	84	98	5	620

### 3. 調査の時期 (質問票の配布・回収)

自昭和54年11月 至同年12月

### 4. 集計作業

回収した質問票をセミナー参加学生の手によってマークカードに転換し、多元クロス統計機(タナックセレクトター)を使用して集計した。なお、マークカードの作成に当って、マークのつけ方に若干不用意なものがあり、今回の再集計に当って、かなりカードの補正を余儀なくされたことを、後日の参考までに附記しておく。

### 5. 調査結果の概要とその分析

以下、質問票の項目順にしたがって、そのデータ集計結果の紹介ならびに夫々に対する若干の分析、解説をほどこした。

各項目の見出し番号は、質問票のままとし、内容が解りやすいように、なるべく質問票に記した通りの字句をはじめに掲げるようにした。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

Ⅱ. 音楽大学生、音楽大学系卒業以外の方におたずねします。

Ⅱ-1

あなたは楽器や歌を習ったり、たしなんだりしたことがありますか。(現在も含めて)

社会人 (764人)

表 5

性 別	男 (310人)						女 (405人)						合 計	性 別 不 明	年 層 不 明	総 計
	20才 30才	31才 40才	41才 50才	51才 60才	61才 以上	計	20才 30才	31才 40才	41才 50才	51才 60才	61才 以上	計				
ア. ある	64.5%	55.4%	40.7%	45.8%	38.5%	46.5%	66.7%	44.2%	47.3%	63.6%	75.0%	50.4%	48.7%			
イ. ない	35.5%	42.9%	56.8%	50.0%	61.5%	51.3%	20.4%	51.7%	49.1%	36.4%	25.0%	44.9%	47.7%			
無 答	0.0%	1.8%	2.5%	4.2%	0.0%	2.3%	13.0%	4.1%	3.6%	0.0%	0.0%	4.7%	3.6%			
計	31人	56人	162人	48人	13人	310人	54人	147人	167人	33人	4人	405人	715人	49人		764人

備考 1) 年齢別で、100人未満の箇所は、精度が低いという観点から、%に※をつけた。……以下同様。

2) Ⅱの質問は「音楽大学生、音楽大学系卒業以外の方におたずねします」としたことから、無答中にはその関係者が含まれているはずである。

一般大学生 (897人)

表 6

性 別	男 (331人)				女 (548人)				合 計	学 部 不 明	性 別 不 明	総 計
	文化系 法・経・文 学	理科系 工・医・理 農 学 部	その他 家政・被服 学 科	計	文化系 法・経・文 学	理科系 工・医・理 農 学 部	その他 家政・被服 学 科	計				
ア. ある	68.1%	62.1%	50.0%	65.3%	91.2%	66.7%	87.6%	89.6%	80.4%			
イ. ない	30.8%	35.2%	50.0%	32.9%	7.2%	33.3%	7.6%	8.0%	17.4%			
無 答	1.1%	2.8%	0.0%	1.8%	1.5%	0.0%	4.8%	2.4%	2.2%			
計	182人	145人	4人	331人	388人	15人	145人	548人	879人	4人	14人	897人

最近、日本の音楽社会の様々なデータに関する貴重な資料を集め紹介した本が出版された(増井敬二編著:データ・音楽・にっぽん、民主音楽協会一民音音楽資料館、1980年2月)。この書にも、NHK放送世論調査所が昭和43年7月に実施した「全国意向調査」中の、「ふだんどんな楽器を弾いているか」という集計表が出ているが(同書 p. 105)、それに比して、次表に見るとく、今回の調査で音楽学習経験者の比率が大幅に多数を占めているのは、やはり最近十数年に亘る音楽学習の格段の普及と、大都市圏居住者の該当者の高率ということによる違いと思われる。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

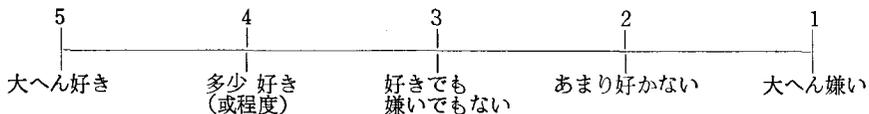
II-1 ……楽器や歌を習ったりたしなんだりしたことが「ある」→どんな種類ですか？ 表7

区 分	社 会 人 ( $\frac{348人}{764人} = 45.5\%$ )			一般大学生 ( $\frac{707人}{897人} = 78.8\%$ )		
	男 (144人)	女 (204人)	計 (348人)	男 (216人)	女 (491人)	計 (707人)
楽器や歌の種類						
ア. ピアノ	11.1 %	41.7 %	29.0 %	24.1 %	71.5 %	57.0 %
イ. オルガン (電子オルガンを含む)	7.6	20.1	14.9	23.1	48.3	40.6
ウ. バイオリン系 (セロ・バスを含む)	8.3	4.9	6.3	5.1	2.9	3.5
エ. ギター	33.3	11.8	20.7	59.7	9.4	24.8
オ. 管楽器 (洋楽系)	16.7	1.5	7.8	19.0	7.5	11.0
カ. 打楽器	4.9	4.9	4.9	9.7	7.5	8.2
キ. 邦楽器	8.3	19.6	14.9	1.4	9.6	7.1
ク. その他の楽器	6.9	2.0	4.0	8.3	2.9	4.5
ケ. 歌唱 (洋楽系)	6.3	10.3	8.6	6.5	11.2	9.8
コ. コーラス	11.8	37.8	27.0	11.6	23.2	19.7
サ. 民謡	9.7	6.9	8.0	0.9	1.2	1.1
ン. 邦楽系のうた	13.9	6.4	9.5	1.4	3.1	2.5
ス. その他	3.5	0.5	1.7	3.2	0.4	1.3
無答	2.1	0.0	0.9	2.8	2.6	2.7
計	144人	204人	348人	216人	491人	707人

(備考) 年層別、学部系別等の詳細な欄は省略した。

II-2

あなたは、いわゆるクラシック音楽をどの程度愛好しておられますか。数字に○をつけて下さい。



次表の計らんに見られるように、社会人、一般学生ともに、4. 多少 (或程度) 好き、と 2. あまり好かない で男女差が見られる。また、両グループともに女性の方が愛好度が高い。

この項は、爾後のいくつかの項で、5・4グループ (クラシック好き) と 3・2・1グループ (そうでないグループ) とに大別して相関性を見ていくベースとされている。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

社会人 (715人)

表 8

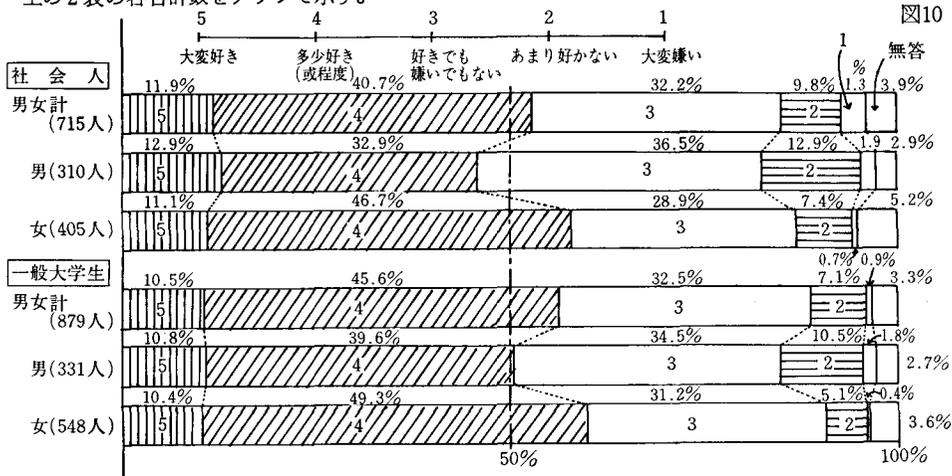
性 別	男 (310人)						女 (405人)						合 計
	20才 〜 30才		31才 〜 40才		41才 〜 50才		51才 〜 60才		61才 以上		計		
II-2													
5. 大へん好き	16.1%	17.9%	9.7%	19.6%	7.7%	12.9%	8.7%	5.7%	14.9%	27.3%	0.0%	11.1%	11.9%
4. 多少好き	25.8%	37.5%	36.1%	32.6%	15.4%	32.9%	54.3%	49.3%	51.6%	33.3%	25.0%	46.7%	40.7%
3. 好きでも 嫌いでもない	41.9%	32.1%	38.1%	39.1%	30.8%	36.5%	26.1%	37.1%	27.3%	21.2%	50.0%	28.9%	32.2%
2. あまり好かない	9.7%	12.5%	13.5%	8.7%	38.5%	12.9%	10.9%	6.4%	6.2%	15.2%	25.0%	7.4%	9.8%
1. 大へん嫌い	3.2%	0.0%	2.6%	0.0%	7.7%	1.9%	0.0%	1.4%	0.0%	3.0%	0.0%	0.7%	1.3%
無 答						2.9%						5.2%	3.9%
計	31人	56人	155人	46人	13人	310人	46人	140人	161人	33人	4人	405人	715人

一般大学生 (879人)

表 9

性 別	男 (331人)				女 (548人)				合 計
	文化系 〔法・経・文 学〕	理科系 〔工・医・理 学〕	その他 〔家政・被服 科〕	計	文化系 〔法・経・文 学〕	理科系 〔工・医・理 学〕	その他 〔家政・被服 科〕	計	
II-2									
5. 大へん好き	12.4%	9.9%	0.0%	10.8%	13.0%	0.0%	5.8%	10.4%	10.5%
4. 多少好き	43.8	38.0	0.0	39.6	55.6	35.7	40.6	49.3	45.6
3. 好きでも 嫌いでもない	32.6	37.3	100.0	34.5	28.6	35.7	42.8	31.2	32.5
2. あまり好かない	10.1	12.0	0.0	10.5	2.6	21.4	10.9	5.1	7.1
1. 大へん嫌い	1.1	2.8	0.0	1.8	0.3	7.1	0.0	0.4	0.9
無 答				2.7 7人				3.6 18人	3.3
計	182人	145人	4人	331人	378人	14人	138人	548人	879人

上の2表の各合計数をグラフで示す。



音楽に関する社会人・学生の意識調査

Ⅲ あなたはどんな種類の音楽が好きですか、または嫌いですか。——まず全体として好きなものをア、イ、ウの中から選び○をして下さい（2つ以上でもかまいません）。そして、種類の中から特に好き、または嫌いなものにもそれぞれ○を記入して下さい。

ここでは、ア、イ、ウの大別の○（好き）の集計結果のみを掲げ他の詳細は省略する。

表11

好きな種類の大別	社 会 人	一般大学生	音楽大学生
ア) 日本系の音楽	261人 34.2%	115人 12.8%	77人 12.4%
イ) 西洋系のクラシック音楽	152 19.9	219 24.4	412 66.5
ウ) 西洋系のポピュラー音楽	227 29.7	703 78.4	428 69.0
無 答	296 38.7	143 15.9	9 1.5
実 人 数	764 人	897 人	620 人

(備考) %は実人数に対する比率、多肢選択のため%の合計は100%をこえる。

社会人は別として、大学生では、音楽大学生でさえ！ 西洋系のポピュラー音楽の愛好が第1位（7割弱）、一般大学生では8割弱と圧倒的多数を占める。

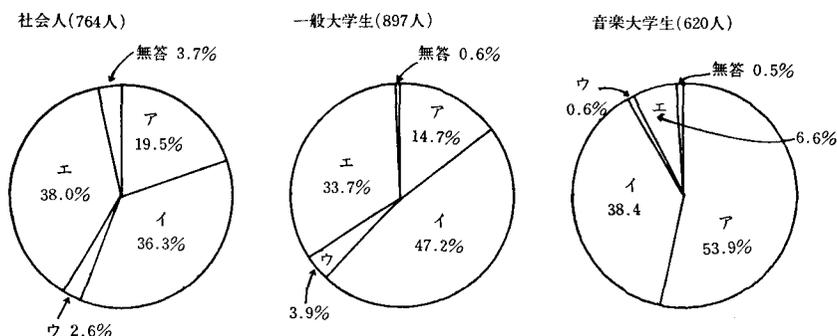
Ⅳ [テレビ、ラジオの音楽番組視聴時間（一週間当り）の質問] ……………省略

以上、Ⅰ～Ⅳ項目は、回答者自身に関する諸カテゴリーや経験・嗜好の状態であるが、次のⅤ項目以下が、意識ないし意見に関する事項である。

Ⅴ いわゆる〈クラシック音楽〉に関しておたずねします。

Ⅴ-1 テレビやラジオのクラシック音楽番組は ア. もっとふやすべきだと思う イ. 今の割合いで充分と思う ウ. もっと少なくともよいと思う エ. よくわからない。

図12



音楽に関する社会人・学生の意識調査

V-2 (演奏会入場料の現状に対する意見)……省略。

V-3 <クラシック音楽>に関するイメージ調査

社会人、一般大学生については、夫々男女別に II-2 (クラシック音楽の愛好度) の 5・4 (好きなもの) と 3・2・1 (そうでないもの) の 2 グループに大別した場合、および全員という区分で、音楽大学生は全員(男子33人を含む)のみで集計した。

<クラシック音楽>という言葉から、あなたはどのような感じ(イメージ)を受けますか。次の中から思いつくものいくつでも○をつけて下さい。

(クラシック音楽の愛好度 5=大へん好き、4=多少(或程度)好き、3=好きでも嫌いでもない、2=あまり好かない、1=大へん嫌い)

社会人(715人)

表13

II-2) クラシック音楽の愛好度		5・4のもの		3・2・1のもの		5・4のもの	3・2・1のもの	合計 (715人)
イメージ語		男(142人)	女(234人)	男(159人)	女(150人)	男女(376人)	男女(309人)	
同感的・肯定的な語	深みがある	55.6%	54.7%	21.4%	23.3%	55.1%	22.3%	38.6%
	優雅な	34.5	47.9	15.7	16.7	42.8	16.2	29.5
	高尚な	21.8	32.1	23.3	21.3	27.7	22.3	24.2
	音楽文化の代表的なもの	26.8	36.3	11.3	21.3	32.7	16.2	24.2
	偉大な	26.1	26.9	11.3	15.3	26.6	13.3	19.7
	上品な	20.4	25.2	17.0	15.3	23.4	16.2	19.3
	洗練された	26.1	28.6	10.7	10.6	27.7	10.7	19.2
	内容が高度	17.6	17.5	15.7	23.3	17.6	19.4	17.6
	繊細な	13.4	29.5	10.1	6.0	23.4	8.1	15.8
	親しみ易い	7.7	8.1	2.5	10.6	8.0	6.5	5.6
批判的・拒否的な語	新鮮な	4.9	3.4	0.6	2.0	4.0	1.3	2.7
	堅苦しい	9.2	8.5	25.6	26.7	8.8	26.2	15.9
	親しみにくい	8.5	6.0	28.3	27.3	6.9	27.8	15.7
	わかりにくい	4.9	6.8	28.9	24.0	6.1	26.5	14.7
	一部ファンの専有物	7.7	8.5	12.6	14.7	8.2	14.6	10.6
	保守的	14.8	8.1	11.9	8.0	10.6	8.7	9.4
	きれいすぎて物足りない	3.5	1.7	2.5	3.3	2.4	2.6	2.4
時代おくれ	0.7	0.8	2.5	2.0	0.8	2.3	1.4	
無答						1.0	7.1	4.2

質問票では、イメージ語をアトランダムに並べたが、第13表(社会人)、第14表(一般大学生)の作成に当って、イメージ語を「同感的・肯定的」なグループと、「批判的・拒否的」な

音楽に関する社会人・学生の意識調査

一般大学生 (897人)

音楽大学生 (620人)

表14

II-2) クラシック音楽の愛好度		5・4のもの		3・2・1のもの		5・4のもの		3・2・1のもの		合計 (897人)	男女合計 (620人)	
イメージ語		男(170人)	女(328人)	男(157人)	女(205人)	男女 (498人)	男女 (362人)	合計	合計		男女	男女
同感的・肯定的な語	深みがある	63.5%	60.7%	27.4%	30.2%	61.6%	29.0%	45.9	(注) 1)	59.4%		
	優雅な	45.3	52.1	8.5	43.4	49.8	32.3	40.7	3)	36.5		
	高尚な	30.6	44.5	33.8	47.8	39.8	41.7	38.9	4)	36.1		
	上品な	21.2	34.8	10.1	34.6	30.1	28.7	28.3	6)	31.0		
	偉大な	30.6	35.7	7.9	27.8	33.9	22.9	28.1	2)	44.5		
	繊細な	41.2	29.3	7.3	17.1	33.3	16.3	25.1	8)	25.5		
	音楽文化の代表的なもの	21.8	27.7	8.8	28.3	25.7	24.0	24.0	7)	30.8		
	洗練された	34.7	30.8	6.4	13.2	32.1	13.3	23.2	8)	25.5		
	内容が高度	19.4	25.3	6.7	29.8	23.3	22.9	22.2	5)	31.9		
	親しみ易い	7.1	4.6	0.6	0.5	5.4	0.8	3.3	10)	6.3		
批判的・拒否的な語	新鮮な	7.1	2.1	0.6	1.5	3.8	1.4	2.7	11)	5.0		
	堅苦しい	11.2	16.1	19.8	39.0	14.5	40.1	24.2	2)	23.9		
	保守的	14.7	22.0	9.8	22.4	15.7	21.5	19.5	1)	24.4		
	親しみにくい	7.1	7.0	16.2	35.6	7.0	34.8	17.9	4)	9.5		
	一部ファンの専有物	8.8	12.2	12.8	20.0	11.0	22.9	15.4	3)	22.4		
	わかりにくい	6.5	4.9	16.8	16.6	5.4	24.6	12.9	5)	6.1		
	きれいすぎて物足りない	2.9	2.7	4.0	13.7	8.2	11.3	6.1	6)	2.7		
時代おくれ	3.5	0.9	2.7	5.4	1.8	5.5	3.2	7)	1.5			
無答								4.1		2.7		

(注) 1) 2)……はイメージ語回答率の順位

ものに大別し、夫々のグループを、男女合計らんで高率なものから順に配列した。

概括的に見ると、男・女、好・嫌を問わず、「深みがある」、「優雅な」、「高尚な」等のイメージが——一般大学生3・2・1グループを除いて——揃って上位を占め、また、拒否的なイメージでは、好きでないグループで「堅苦しい」「親しみにくい」「わかりにくい」等が特に目立つ。

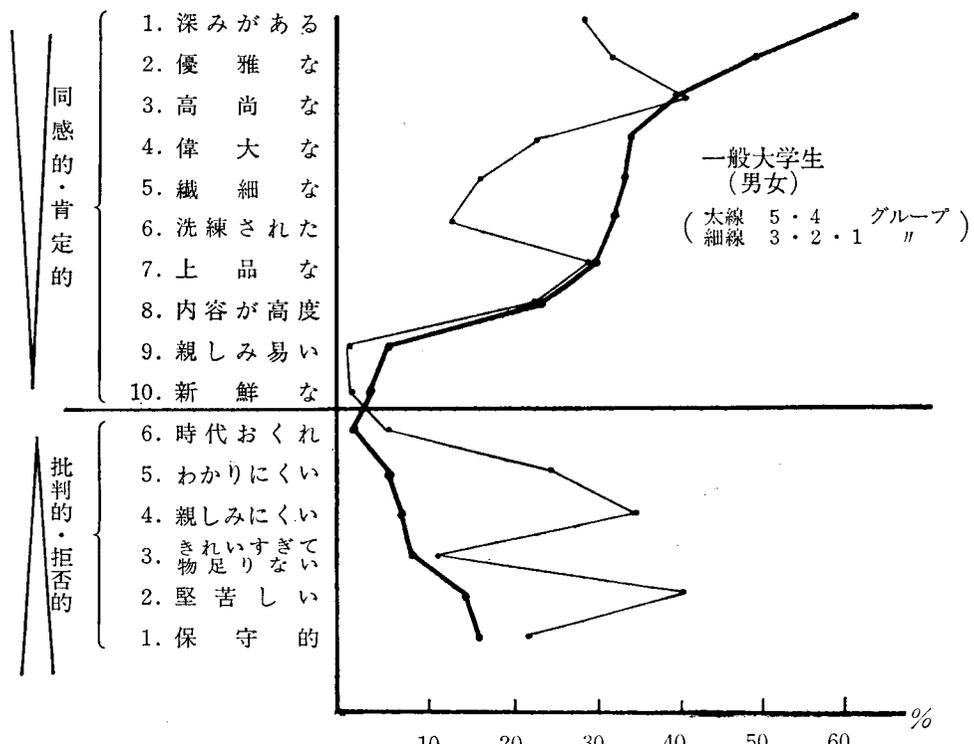
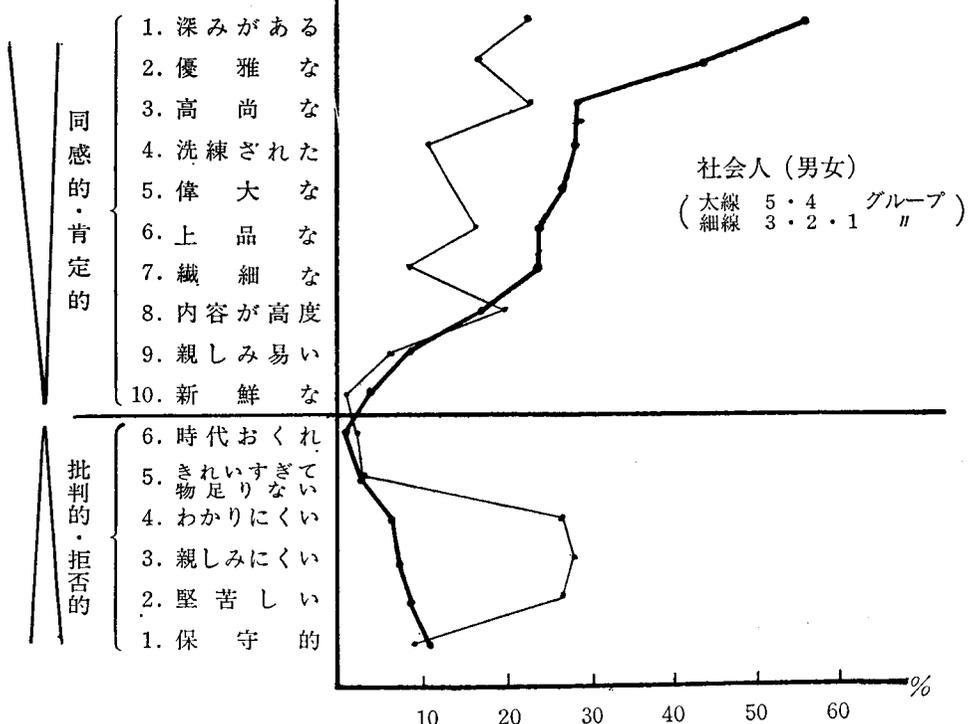
語句のうち、「音楽文化の代表的なもの」と「一部ファンの専有物」とは、他に比べて音楽に対する直接的・感覚的なイメージとは言い難いので、これを除外して、社会人と一般大学生について下図のようなプロフィールを作成してみた。

5・4グループと3・2・1グループとで、全体としてはかなりなずれのあることが分る。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

イメージ語によるプロフィール

図15



音楽に関する社会人・学生の意識調査

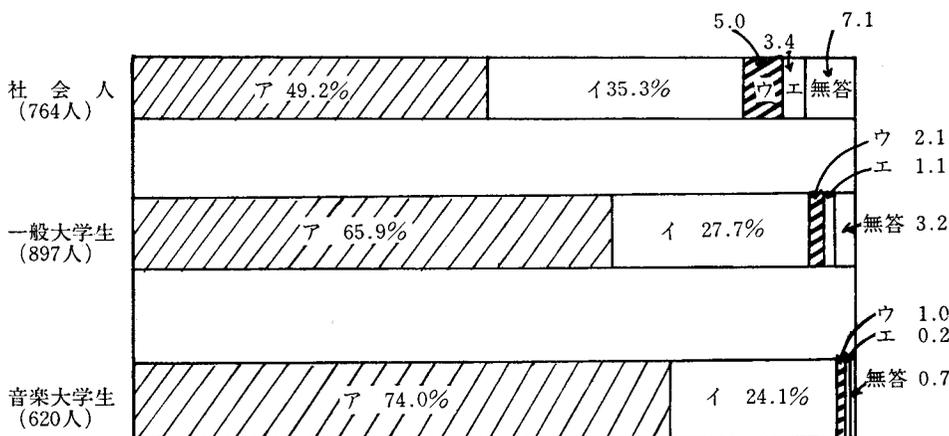
VI 現代一般社会では、多種多様の音楽が普及し愛好されていますが、音楽の必要性についてあなたのお考えをお尋ねします。

VI-1 音楽は社会生活上、どの程度必要だと思いますか？

- ア. 大変必要なものと思う。
- イ. あった方が望ましいと思う。
- ウ. 特に必要はない（望む人だけがやればよい）と思う。
- エ. よくわからない。

社会人、一般大学生、音楽大学生夫々全員の意見を比較すると、次のようになる。

図16



音楽の必要度に対する考え

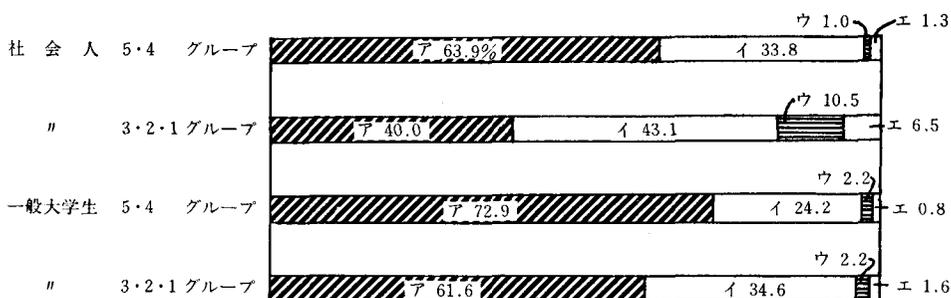
表17

区分	(II-2) クラシック音楽の愛好度	ア	イ	ウ	エ	無答	計
社会人	大へん好き～多少好き	32.2%	17.0%	0.5%	0.7%	7.1%	764人
	好きでも嫌いでもない～あまり好かない～大へん嫌い	17.0	18.3	1.2	0.4		
一般大学生	大へん好き～多少好き	40.7	13.5	4.5	2.7	3.2	897
	好きでもきらいでもない～あまり好かない～大へん嫌い	25.2	14.2	0.9	0.7		

社会人と一般大学生について、II-2のクラシック音楽愛好度で5・4（好きグループ）と3・2・1（どちらでもない～きれいグループ）に分けると、上表のようである。（各欄は全員に対する％）これを、無答を除いたア～エの割合で見ると、次頁の第18図のように、全体的にはア（音楽を大変必要なものとする意見）が過半ないし最多であるが、社会人の3・2・1グループ（非愛好者）において、イの意見が上廻る。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

図18



VI-2

前項でア（大変必要と思う）とイ（あった方が望ましいと思う）の回答者に限定して、音楽の有意義な理由を問うたが、一つのみ選択との指示にも拘わらず 2 項以上選択したものもあり、また、次項とも類似するので、ここでは省略する。

VI-3

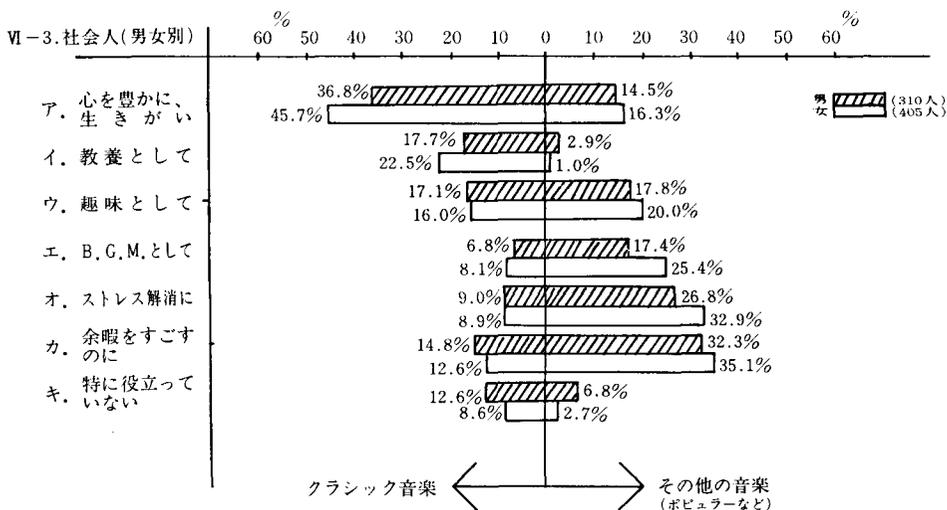
あなたの精神生活にとって音楽はおもにどのような役割を果たしていると思われますか？二種類の音楽に大別して、それぞれ 2 つ以内で○を記入して下さい。

社会人（男女別）、一般大学生（男女別）、音楽大学生について、クラシック音楽とその他の音楽（ポピュラーなど）に対する意見の割合を左右に対照的にグラフ化してみた。

（選択肢は図20に全文、他は省略して示した）

VI-3 社会人（男女別）

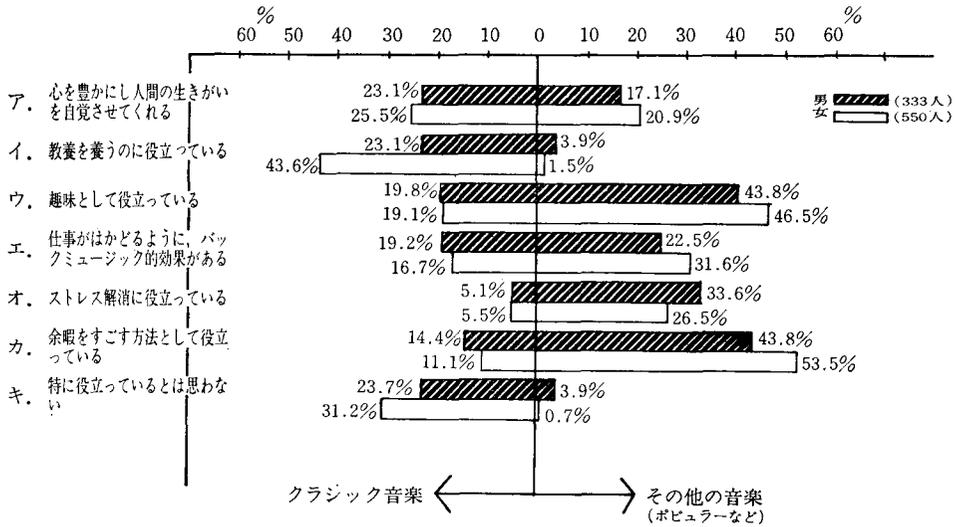
図19



音楽に関する社会人・学生の意識調査

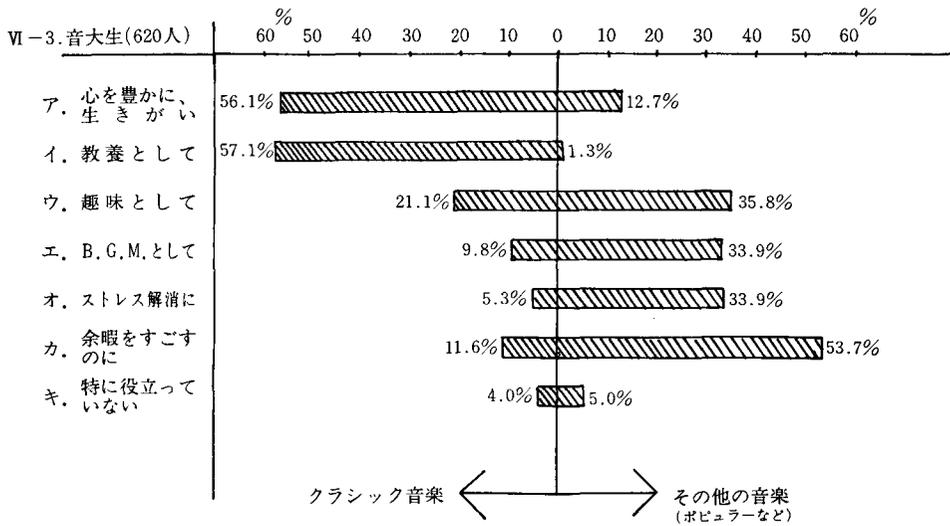
VI-3 一般大学生（男女別）

図20



VI-3 音大生 (620名)

図21



どのグループも共通して、クラシック音楽とその他で、その役割りと見なす傾向がかなり相違しているのが分る。一般大学生のイ（教養として）において、男女差が特に大きいほかは、男女間にあまり大きな差異はない。また、クラシック音楽が一般大学生（男女とも）において、特に役立つにしない割合の多いことが目立つ。クラシック音楽に比して、その他の音楽が、何れにおいても殆ど「教養として」は扱われていないのも——自然のなりゆきと

音楽に関する社会人・学生の意識調査

は思うが——顕著である。社会人で、アがイに比してはるかに多いのに対し、一般大学生では順序が逆になるのが、いささか気がかりではある。……教養主義的態度が、真の自覚的な芸術体験にまで成立し切らないことは大きな問題点だからである。

VII、VIII

現在広く普及している各種の音楽教室や音楽早期教育一般に関する種々の意見を問うたが、ここでは、その一部のみ抽出して紹介するにとどめる。

VII-2

音楽教室の現状についての期待度

表22

	社会人		一般大学生		音楽大学生
	II-1=ア	II-1=イ	II-1=ア	II-1=イ	
ア. 大いに期待出来る	5.8%	3.4%	4.4%	2.0%	1.6%
イ. ある程度期待出来る	64.1	59.0	70.1	51.3	58.2
ウ. あまり期待出来ない	14.3	13.5	12.8	22.0	32.3
エ. 全く期待出来ない	1.7	0.0	0.3	0.7	1.9
オ. よくわからない	14.0	24.2	12.4	24.0	5.5*
計	343人	327人	702人	150人	620人

(備考) II-1で音楽の学習経験を問うたうち、経験あり=ア、経験なし=イ、の2グループに分けた。

(※ 別に無答=0.5%あり)

社会人、一般大学生とも、アないしイ項目で音楽の学習経験の方が、非経験者より期待度の多いのはうなずけるが、音楽大学生において、ウ（あまり期待出来ない）とエ（全く期待出来ない）が計34.2%もあることは注目に値する。筆者は15年前、京阪神地区音楽大学生に対して、同様のアンケート調査をしたが、その中で音楽早期教育について、疑問視するものが50%を占めていたこと（無答が別に41%あった）を想起する。

(相愛女子大学研究論集第14巻〈音楽大学生のヴィジョン〉——傾向性の調査——p. 62、昭和40年9月)

音楽に関する社会人・学生の意識調査

Ⅷ-1 音楽の早期教育についての関心度

表23

	社会人		一般大学生		音楽大学生
	音楽有経験	非経験	有経験	非経験	
ア. 大いに関心がある	16.6%	9.6%	12.1%	5.9%	26.1%
イ. ある程度関心がある	59.3	48.8	48.4	34.6	60.5
ウ. あまり関心がない	20.1	33.4	34.2	41.2	11.3
エ. まったく関心がない	4.1	8.1	5.2	18.3	1.8*
計	344人	332人	708人	153人	620人

(※ 別に無答0.5%あり)

Ⅷ-4 音楽早期教育の必要性についての意見

表24

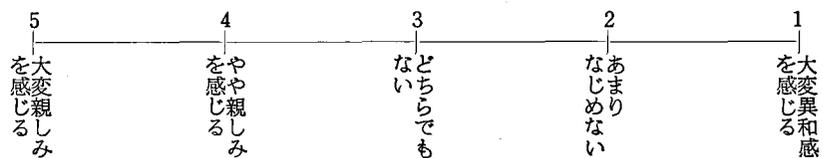
	社会人		一般大学生		音楽大学生
	有経験	非経験	有経験	非経験	
ア. 才能をのばすため一般的に必要	30.9%	22.3%	25.6%	19.0%	27.7%
ア. 或程度必要	38.4	39.6	39.0	32.0	39.7
ウ. 必ずしも必要とは限らない	14.9	21.4	18.0	21.6	14.8
エ. あり方によっては有害でもありうる	10.3	5.1	14.9	21.6	22.1
オ. よくわからない	5.4	11.6	2.5	5.9	0.3
計	349人	336人	718人	153人	620人*

(※) 音楽大学生のみ、実数620人のところ、2項目○印のものがあり延650人となったが、各回答の%は実人数で割ってある。

ウ+エが、一般大学生の有経験者で33%、音楽大学生で37%もあり、アをかなり上回る点留意を要する。

Ⅸ 古典邦楽（伝統芸能としての日本古典音楽）についておたずねします。

Ⅸ-1 この種の音楽に対するあなたの親近感について、次の数字に○をつけて下さい。



音楽に関する社会人・学生の意識調査

表25

親近感	社 会 人	一 般 大 学 生	音 楽 大 学 生
5	40.2% { 9.8 % 30.4	21.8% { 3.6 % 18.2	31.4% { 4.8 % 26.6
4			
3	25.7	26.6	21.9
2	31.7 { 29.5 2.2	51.0 { 45.3 5.7	44.4 { 40.5 3.9
1			
無答	2.5	0.8	2.3
計	764 人	897 人	620 人

社会人に比し、青年層（一般大学生）で5・4が約半数、22%と低く、2・1（邦楽離れ）が全体の半数を超える傾向が見られる。社会人と一般大学生について男女別に見ると、

表26

	社 会 人 (男)	同 (女)	一般大学生 (男)	同 (女)
5	9.0 %	10.4 %	3.0 %	4.0 %
4	31.9	31.4	15.3	20.0
3	21.3	27.4	24.3	28.5
2	32.6	26.9	56.7 { 46.5 10.2	46.7 { 43.8 2.9
1	2.6	2.2		
無答	2.6	1.7	0.6	0.7
計	310 人	405 人	333 人	550 人

非愛好者グループ（2・1）で社会人の男女間に若干の差が、大学生ではかなりの男女差が見られる。

前出の項目Ⅱ-2〈クラシック音楽の愛好度〉の、愛好者グループを非愛好者グループに分けてみると、

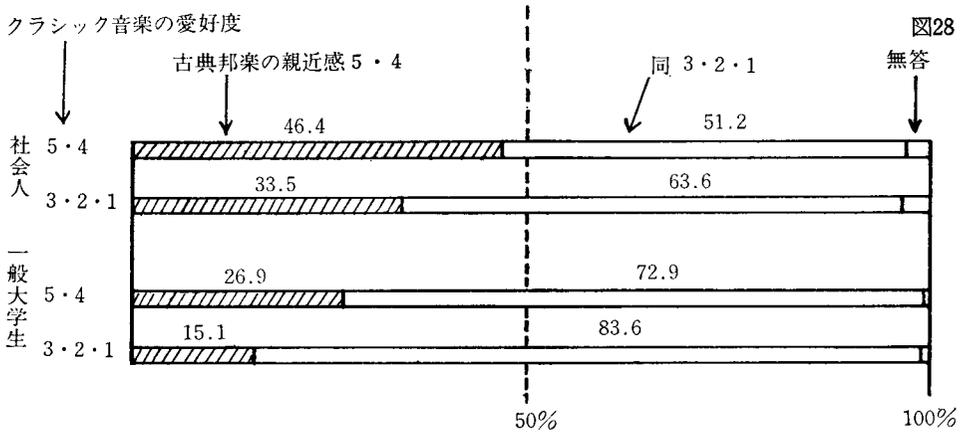
表27

	社 会 人 (男女計 764人)		一 般 大 学 生 (男女計 897人)	
	クラシック音楽愛好者(5・4)	非愛好者(3・2・1)	同愛好者(5・4)	非愛好者(3・2・1)
5	46.4% { 12.3 % 34.1	33.5% { 7.0 % 26.5	26.9% { 4.2 % 22.7	15.1% { 2.8 % 12.3
4				
3	51.2 { 21.5 27.9	63.6 { 29.9 31.0	72.9 { 25.9 42.5	83.6 { 27.6 48.8
2				
1				
無答	2.3	3.2	0.2	1.3
計	390人 (51.0%)	374人 (49.0%)	506人 (56.4%)	391人 (43.6%)

(備考) クラシック音楽愛好度 5：大へん好き、4：多少(或程度)好き、3：好きでも嫌いでない、2：あまり好かない、1：大へん嫌い

音楽に関する社会人・学生の意識調査

これをグラフにしてみると、社会人においても、大学生でも、クラシック音楽愛好者の方が、非愛好者に比し、古典邦楽への親近感の比率の高いこと——或程度の並行現象——がわかる。



IX-2 この種の音楽に対してあなたはどのような感じ(イメージ)をもたれますか。次の語の中からいくつでも選んで○をつけて下さい。

表29 (IX-1 古典邦楽に対する親近感)

イメージ語	社会人(男女)			5・4のもの		3・2・1のもの		
	合計 (715人)	親近感 5・4のもの (294人)	同 3・2・1のもの (404人)	男 (127人)	女 (169人)	男 (175人)	女 (229人)	
A グループ	なつかしい感じがする	27.0%	47.3%	13.1%	43.3%	50.3%	9.7%	15.7%
	繊細で情趣に富んでいる	24.6	44.3	11.1	48.8	40.8	8.0	13.5
	品が良い	12.3	19.6	7.4	18.9	20.1	4.0	10.0
	ききごたえがある	8.0	16.2	2.2	18.1	14.8	2.3	2.2
	おもしろい	5.5	10.8	1.7	13.4	8.9	2.8	0.9
	わかり易い	3.2	5.1	2.0	4.7	5.3	2.3	1.7
	(西洋クラシック音楽と比較)して芸術的に劣らない	18.9	30.1	11.4	27.6	31.9	11.4	11.4
B グループ	わかりにくい	27.3	4.1	45.3	3.9	4.1	50.3	41.5
	とっつきにくい(異和感がある)	21.4	2.7	35.9	3.9	1.8	41.7	31.4
	単調な感じである	19.2	11.8	25.2	10.2	13.0	22.9	27.1
	迫力に欠ける	6.9	4.1	9.2	4.7	3.6	10.9	7.9
	時代遅れの感じがする	5.0	2.0	7.4	2.4	1.8	8.6	6.6
	おもしろくない	2.9	0.3	14.8	0.8	0.0	18.9	11.8
	(西洋クラシック音楽に比べ)て見劣りがする	2.8	2.4	3.2	3.9	1.2	5.1	1.7
無 答	2.1							

音楽に関する社会人・学生の意識調査

表29（前頁）と表30は、社会人および一般大学生・音楽大学生について14のイメージ語を、Aグループ（同感的・肯定的なもの7つ）とBグループ（批判的・拒否的なもの7つ）に分け、Aのうち概念的な「西洋クラシック音楽と比較して芸術的に劣らない」を除いて、夫々合計で多い順に配列したものである。

表30

イメー ジ語		一般大学生			音楽大学生		
		合計 (897人)	親近感5・4 (192人)	同3・2・1 (683人)	合計 (620人)	同5・4 (200人)	同3・2・1 (418人)
A グ ル ー プ	繊細で情趣に富んでいる	25.5%	57.8%	17.3%	29.3%	59.0%	15.1%
	なつかしい感じがする	12.0	26.0	8.5	11.7	23.0	6.5
	おもしろい	11.3	26.6	7.3	15.7	37.0	5.5
	品が良い	10.1	15.6	10.4	11.2	15.0	9.3
	ききごたえがある	4.1	14.1	1.5	3.2	7.0	1.4
	わかりやすい	2.5	5.2	1.8	1.9	4.5	0.7
	(西洋クラシック音楽と比較して) 芸術的に劣らない	22.1	44.8	16.4	31.7	50.5	22.7
B グ ル ー プ	わかりにくい	43.5	12.5	53.6	46.9	16.0	61.7
	とっつきにくい(異和感あり)	38.4	7.3	46.8	39.0	9.0	53.3
	単調な感じである	30.5	19.3	34.7	34.6	19.5	41.9
	おもしろくない	24.7	2.6	33.2	18.6	0.5	27.9
	迫力に欠ける	16.8	10.9	19.0	16.5	7.0	21.1
	時代遅れの感じがする	13.4	4.7	16.3	8.6	5.0	10.3
	(西洋クラシック音楽と比べて) 見劣りがする	3.9	1.6	4.7	6.6	2.0	8.9
無 答	2.1			0.5			

社会人と学生層では、Aグループで「繊細で情趣に富んでいる」と「なつかしい感じがする」とが1・2位逆転しているほかは、イメージの順位に変わらない。Bグループでも上位3つまでは共通している。（そのほかでは音楽大学生でAグループの、2・3位が入れ替わっているだけである）

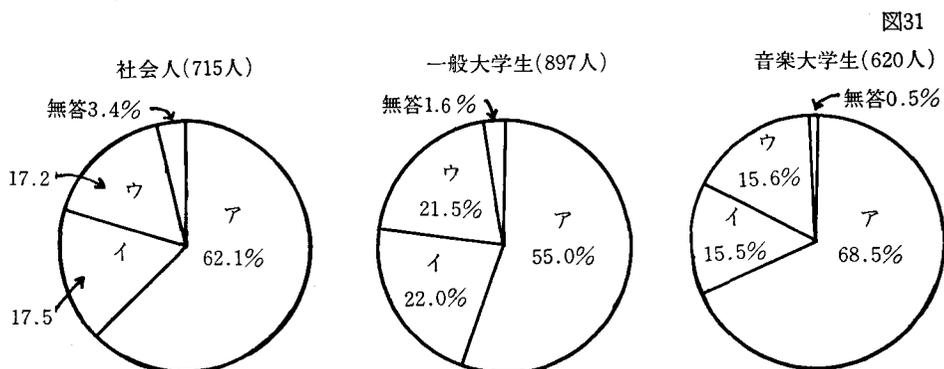
社会人の、親近感5・4のものを除き、A・Bグループともすべてにわたって——社会人、学生を問わず、また5・4でも3・2・1のものでも——上位3ないし4のイメージに集中しているのがわかる。

男女比については、社会人のみ示したが、かなり差のあるものとして次のようなものが見出だせる。「なつかしい感じがする」：男<女、「品がよい」：(3・2・1)の男<女、「繊細で情趣に富んでいる」：(5・4)の男>女、「おもしろくない」「わかりにくい」、「とっつきにくい」：(3・2・1)の男>女、一般大学生にも大体同様の傾向が見られる。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

IX-3 この種の音楽の社会における現状ないし将来についてあなたはどのように思いますか。

- ア. 日本人としてもつと大事にして、守り育てていくべきだと思う。
- イ. 時代の移り代わりに応じて音楽も変化してゆくものだから、なりゆきにまかせるほかないと思う。
- ウ. よくわからない。



上記のような割合で、何れも古典邦楽の保持に高い関心をはらっているが、特に音楽大学生が、その殆どの専攻がヨーロッパ音楽であるにも拘らず、7割近く、最高値を示していることは注目に値する。

X 日本の現代の音楽家、音楽大学生に対するイメージについてお尋ねします。

この項は、社会人や一般学生が、音楽家や音楽学生をどのように見なしているか、ということについて、音楽大学関係者としての平素の自覚から、何がしかの反省や自戒のための参考になれば、との観点に立って若干の設問が組まれた。「音楽家」の概念や範囲についてあいまいな点は否めないが、特別の説明などを加えることなく、通念に依ってもらうに委せた。

X-1 音楽家には文化人として尊敬に値する人が多いと思いますか。

表32

	社会人			一般大学生			音楽大学生
	合計	男	女	合計	男	女	
ア. 思う	22.1%	20.3%	23.5%	21.1%	17.7%	23.1%	27.3%
イ. 思わない	7.0	10.0	4.7	12.0	16.2	9.5	8.2
ウ. どちらとも言えない	50.0	49.4	50.1	55.2	55.3	55.1	56.0
エ. よくわからない	16.9	16.8	17.0	9.6	7.8	10.7	7.4
無答	4.1	3.6	4.4	2.2	3.0	1.6	1.1
計	715人	310人	405人	883人	333人	550人	620人

音楽に関する社会人・学生の意識調査

X-2 音楽家は人間的にも円満で立派な人が多いと思いますか。

表33

	社会人			一般大学生			音楽大学生
	合計	男	女	合計	男	女	
ア. 思う	14.0%	14.5%	13.6%	6.2%	7.5%	5.5%	5.6%
イ. 思わない	12.0	14.5	10.1	22.4	26.4	20.0	26.6
ウ. どちらとも言えない	53.3	52.3	54.1	57.8	53.2	60.5	62.0
エ. よくわからない	16.5	14.8	17.8	11.9	10.5	12.7	4.8
無答	4.2	3.9	4.5	1.7	2.4	1.3	1.0
計	715人	310人	405人	883人	333人	550人	620人

X-1、2ともに、社会人でも一般大学でも否定的意見で男女差（男>女）が見られる。

X 1……文化人として尊敬に値い……  
2……人間的にも円満で立派……を各対象グループごとにグラフで比較してみよう。

図34



どのグループでも、1のア（肯定）に比べて2のア（肯定）が少なく、その段差は、一般学生、そして特に音楽大学生において著しい。

X-3 音楽家には人間的に偏った人が多いと思いますか。

表35

	社会人			一般大学生			音楽大学生
	合計	男	女	合計	男	女	
ア. 思う	18.1%	19.7%	17.0%	23.7%	25.2%	22.7%	40.2%
イ. 思わない	15.1	17.1	13.6	14.7	14.1	15.1	9.0
ウ. どちらとも言えない	44.6	46.1	44.7	46.2	46.5	46.0	44.2
エ. よくわからない	18.7	14.2	20.7	13.7	11.4	15.1	5.5
無答	3.5	2.9	4.0	1.7	2.7	1.1	1.0
計	715人	310人	405人	897人	333人	550人	620人

音楽に関する社会人・学生の意識調査

この問いは、前のX-2の問いとおよそ相補的内容であるが、回答は社会人のみ補完的（対応的）ではない。

表36

	＜社会人＞		＜一般大学生＞		＜音楽大学生＞	
	思 う	思 わない	思 う	思 わない	思 う	思 わない
X-2	14.0%	> 12.0	6.1	< 22.5	5.6	< 26.6
X-3	18.2	> 15.1	23.9	> 14.8	40.2	> 9.0

しかし社会人でも、肯定・否定の差は少なく、一般大学生において否定的意見がかなり多く、特に音楽大学生において、その差が著しい。音楽家の状態を最もよく承知している音楽大学生の、このイメージ差は注目すべき事柄であろう。実にその4割強が、音楽家を人間的に偏っていると見ているのである。

そこで、その偏り方をどう見ているかを問うてみた。

X-4 上記でア（思う）と答えた人は、その偏り方が次のうちのどれだと思いますか。

表37

	社 会 人	一般大学生	音楽大学生
a. 社会性に乏しい人が多いと思う	26.9 %	27.8 %	32.1 %
b. 「我」が強い人が "	37.0	51.2	53.0
c. 独 善 的 な 人 が "	30.7	20.5	15.7
d. 利 己 的 な 人 が "	13.9	16.2	28.5
e. 偏 見 の あ る 人 が "	18.5	17.3	14.1
計	130 人	209 人	249 人

男女差は、社会人のc（独善的）で大きい（男>女）他は、あまり多くは見られなかった。b（「我が強い」）が何れも最大値で、このイメージには、「芸術家としての個性の強さ」の意も含まれているとは思いますが、他にもかなり率の高い意見も見られる。

また、X-3について、知人や親せきに音楽家のいる人といない人、音楽の学習経験の有る人と無い人を比較してみたが、肯定・否定とも、前ケースの場合、社会人で、「いる人」の思う（33.0%）>「いない人」の思う（16.7%）以外には、殆ど差は認められなかった。

X-5 音楽大学生と一般大学生とを比較して、次の点であなたはどのように思われますか。

社会人、一般大学生の意見は、エ（よくわからない）が半数前後であるのに次いで、ア（はなはだ欠けている）が3割内外と多いのに比べ、音楽大学生自身のアが4.2%と最小値であり、

音楽に関する社会人・学生の意識調査

ウ（特に欠けているとは思わない）が46.1%と最大値を示しているのは、自負或いは自己弁護の現われであろうか。いづれにしても自意識と他人の見方とのずれが著しい。かつまた、先のX-4での音楽大学生の音楽家観中a（社会性に乏しい人が多いと思う）が32.1%と高い値であるのとも対照的である。

表38

音大生は、一般社会常識に	社会人	一般大学生	音楽大学生
ア. はなはだ欠けている点があると思う	32.6 %	28.1 %	4.2 %
イ. いくらか "	1.3	3.5	10.8
ウ. 特に欠けているとは思わない	14.0	14.8	46.1
エ. よくわからない	46.9	52.0	37.3
無 答	5.3	1.7	1.6
計	715 人	897 人	620 人

XI（この項は音楽大学生の方だけお答え下さい）

現在の音楽専門教育の傾向についてお尋ねします。

1. 技術偏重のきらいがあると思いますか。

表39

	音楽大学生計 620人	声 楽 専 攻	ピアノ・管弦打楽器	作曲・音楽学その他
ア. 思 っ っ	58.4 %	51.7	60.6	62.2
イ. 思 わ な い	19.0	19.4	20.8	16.3
ウ. よくわからない	20.3	25.0	17.3	19.1
無 答	2.3 (注)専攻不明5人含む	3.9	1.3	2.4
計	620 人	180 人	226 人	209 人

2. 合奏、合唱、アンサンブルなどの訓練が不十分だと思いますか。

表40

	音楽大学生 計620人	声 楽 専 攻	ピアノ・管弦打楽器	作曲・音楽学その他
ア. 思 っ っ	80.4 %	76.1	86.3	78.0
イ. 思 わ な い	13.5	17.8	10.2	12.9
ウ. よくわからない	5.6	6.1	3.1	8.1
無 答	0.5	0.0	0.4	1.0

3. よい音楽家になるためにはもっと広い教養を身につけることが必要だと思いますか。

表41

	音楽大学生 計620人	声 楽 専 攻	ピアノ・管弦打楽器	作曲・音楽学その他
ア. 思 っ っ	91.1 %	90.6	95.1	87.1
イ. 思 わ な い	2.7	3.3	1.3	3.8
ウ. よくわからない	5.5	6.1	2.7	8.1
無 答	0.7	0.0	0.9	1.0

音楽に関する社会人・学生の意識調査

4. 音楽大学のカリキュラムには無駄があると  
 思いますか。

表42

	音楽大学生 計620人
ア. 思　　う	57.6 %
イ. 思　わ　ない	19.7
ウ. よくわからない	21.7
無　　答	1.0

5. 音楽大学の状態・雰囲気は保守的だと思  
 いますか。

表43

	音楽大学生 計620人
ア. 思　　う	64.0 %
イ. 思　わ　ない	15.5
ウ. よくわからない	19.0
エ. 無　回　答	1.5

6. 将来音楽家として生活してゆくことに不安を感じますか。

表44

	音楽大学生 計620人
ア. 思　　う	56.6 %
イ. 思　わ　ない	21.6
ウ. よくわからない	21.0
エ. 無　回　答	0.8

7. 上記6. で、ア、と答えた人は、その理由として次の何れが考えられますか。

表45

	352 人
a. 自分に音楽家としての実力が不十分だから	65.2%
b. 社会に音楽家の活動の場が少ないから	30.2
c. 収入が不安定と思えるから	19.9
d. クラシック音楽の愛好者層が減少する傾向にあるから	4.0
e. そ　　の　　他	6.8

(備考)

回答は100%をこえる。

8. 音楽大学の入試システムについて、改善が必要と  
 思いますか。

表46

	音楽大学生 計620人	声　楽　専　攻	ピアノ・管弦打楽器	作曲・音楽学その他
ア. 大いに改善の要ありと思う	20.5 %	20.0	16.8	24.4
イ. 或程度改善の要ありと思う	52.9	52.8	54.9	51.2
ウ. 現状で特に問題はないと思う	16.0	17.2	17.3	13.4
エ. よ　く　わ　か　ら　ない	9.2	8.9	9.7	9.1
無　　答	1.5	1.1	1.3	1.9

音楽に関する社会人・学生の意識調査

9. 音楽の個人レッスンシステムについてご意見を伺います（2つ以内で選んで下さい）。

表47

	音楽大学生 計620人	声 楽 専 攻	ピアノ・管弦打楽器	作曲・音楽学その他
ア. 個人レッスンは実技教育の性格からみて当然そうあるべきだと思う	64.8 %	65.6	69.5	58.9
イ. もっとゼミナールのな在り方も併せて開発の要があると思う	45.6	48.3	46.5	42.6
ウ. 「家元的体質」を打破の要があると思う	36.6	38.3	32.3	39.7
エ. 現状、特に(ウ)のようにも思わない	4.5	3.9	4.9	4.8
無 答	1.1	0.6	0.9	1.9

いくらか誘導尋問的なきらいがあるかもしれないが、何れの項目でも（9以外）問題点ないし改善を要する点に肯定意見が6割ないし8割以上と高率であることは、音楽大学として、大いに反省を要することであり、検討改善への留意が払われねばならぬところであろう。

あとがき

本調査に関しては、アンケートの依頼・回収にあたって多くの方々にご協力をいただいた。京阪神地区の一般大学生・音楽大学生については夫々の大学や本学に御出講いただいている多くの先生方に、また社会人については本学卒業生で教職についておられる方々を通じて、およびセミナー参加学生以外の数十名の学生諸君の協力を得た。なお、データの集計整理については、セミナーに参加した前年度卒業生の中筋伸子、塚本美奈子のご両名に協力していただいた。

以上の方々に深く感謝の意を表したい。

参考文献

- 福武 直  
松原治郎 編：社会調査法、第8刷 昭和47年9月、有斐閣
- NHK放送世論調査所編：現代日本人の意識構造、昭和54年6月、日本放送出版協会
- 増井敬二：資料からみた音楽の動向 —— 数字データと音楽教育 ——  
季刊 音楽教育研究 第22巻第7号、昭和54年1月、音楽之友社
- 吉田 昇  
神田道子 編：現代女性の意識と生活、第3刷、昭和51年7月、日本放送出版協会
- 酒井諄：音楽大学生のヴィジョン —— 傾向性の調査 ——  
女子大学  
相愛 女子短期大学 研究論集第14巻、昭和42年2月、
- 増井敬二編著：データ・音楽・にっぽん、昭和55年2月、民音音楽資料館





音楽に関する社会人・学生の意識調査

3. <クラシック音楽>という言葉から、あなたはどのような感じ（イメージ）を受けますか。次の中から思いつくものいくつでも○をつけて下さい。

- |           |                |                |
|-----------|----------------|----------------|
| ア. 高尚な    | キ. 親しみにくい      | ス. 保守的         |
| イ. 深みがある  | ク. 洗練された       | セ. 親しみ易い       |
| ウ. 堅苦しい   | ケ. 新鮮な         | ソ. 優雅な         |
| エ. 時代おくれ  | コ. 偉大な         | タ. 音楽文化の代表的なもの |
| オ. 上品な    | サ. きれいすぎて物足りない | チ. 一部ファンの専有物   |
| カ. わかりにくい | シ. 繊細な         | ツ. 内容が高度       |

VI 現代一般社会では、多種多様の音楽が普及し愛好されていますが、音楽の必要性についてあなたのお考えをお尋ねします。

1. 音楽は人間の社会生活上、どの程度必要だと思いますか？
- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| ア. 大変必要なものと思う              | イ. あった方が望ましいと思う |
| ウ. 特に必要はない（望む人だけがやればよい）と思う | エ. よくわからない      |
2. 上記でアまたはイと答えた人にお尋ねします。音楽はどのような点で必要（あった方がよい）と思われるますか？ 音楽を二種類に大別して特に有意義と思われる理由をそれぞれ1つずつ選び○を記入して下さい。

	理 由	クラシック音楽	その他の音楽 (ポピュラーなど)
ア	円満な人間形成のために		
イ	個性ある人間形成のために		
ウ	潤いのある生活のために		
エ	余暇を楽しむための有効な手段として		
オ	ストレス解消の手段として		

3. あなたの精神生活にとって音楽はおもにどのような役割を果していると思われますか？ 二種類の音楽に大別して、それぞれ2つ以内で○を記入して下さい。

	役 割	クラシック音楽	その他の音楽 (ポピュラーなど)
ア	心を豊かにし人間の生きがいを自覚させてくれる		
イ	教養を養うのに役立っている		
ウ	趣味として役立っている		
エ	仕事がかどるように、バックミュージック的效果がある		
オ	ストレス解消に役立っている		
カ	余暇をすごす方法として役立っている		
キ	特に役立っているとは思わない		

VII 一般の音楽教室の動向に関するご意見をおたずねします。

1. 現在、大小企業による音楽教室が広く普及していますが、それについてあなたの意見は次のうちのどれに当たりますか。
- ア. 子供達が気軽に音楽を学習することができるから、音楽の発展の為によい事だと思う。

## 音楽に関する社会人・学生の意識調査

- イ. 根底に何らかの企業サイドの制約があって、正しい音楽教育の為にはあまり感心出来ない面があると思う。
- ウ. イのような傾向にあっても、音楽の普及の為には結局プラスになることだと思う。
- エ. よくわからない。
2. 上記の音楽教室の教育効果として、学習者の音楽の向上をどの程度期待しますか。
- ア. 大いに期待できる。                      イ. ある程度期待できる。                      ウ. あまり期待できない。
- エ. 全く期待できない。                      オ. よくわからない。
3. 上記のような音楽教室は、将来もっと普及していくと思いますか。
- ア. もっと普及していくと思う。                      イ. もうこれ以上は広がらないと思う。
- ウ. 後退していくと思う。                      エ. よくわからない。

### Ⅷ 日本では、この頃洋楽に関する早期教育が盛んですが、それについてお尋ねします。

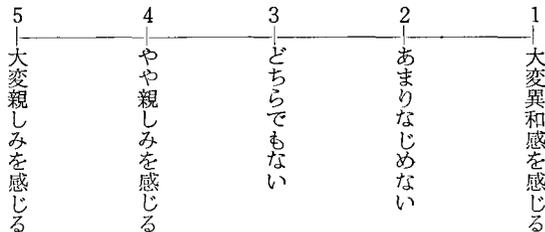
1. 最近の音楽早期教育についてあなたはどの程度関心をおもちですか。
- ア. 大いに関心がある。                      イ. ある程度関心がある。
- ウ. あまり関心がない。                      エ. まったく関心がない。
2. 音楽早期教育の中でピアノ早期教育をどう思いますか。
- ア. 大へん有意義だと思う。
- イ. 特に有意義だとは思わない。
- ウ. ピアノ以外の早期教育の方が適当だと思う。
- エ. よくわからない。
3. 上記でウ、と答えた人におたずねします。それではどのような方法が、適当と思われますか。
- ア. 楽器を使わずまず耳から聞いて音楽を学ぶ方法が適当だと思う。
- イ. リズム教育を中心にした方法が適当だと思う。
- ウ. 歌うことからまず始める方法が適当だと思う。
- エ. ピアノ以外の楽器から始める方法が適当だと思う。
- オ. その他（                      ）
4. 音楽早期教育の必要性についてどう思われますか。
- ア. 音楽的才能をのばすために一般的にみて必要なことと思う。
- イ. 或程度必要なことと思う。
- ウ. 必ずしも必要とは限らないと思う。
- エ. 在りかたによっては有害なこともありうると思う。
- オ. よくわからない。
5. 音楽早期教育を行う場合どのようなレッスン方法がもっとも有効と思われますか。
- ア. グループレッスン。                      イ. 個人レッスン。
- ウ. ア、イのどちらともいえない。                      エ. よくわからない。
6. 音楽早期教育は、将来の良き人間形成に結びつくものだと思いますか。
- ア. 大いにそう思う。                      イ. いくらかそう思う。
- ウ. そう思わない。                      エ. よくわからない。
7. 音楽早期教育には、どのような意義があると思われますか。
- ア. 感受性の豊かな人間形成のために。
- イ. 技術を身につけて将来の生活に役立たせるために。
- ウ. 芸術に興味をもつ人間になるため（音楽教養のため）に。
- エ. 特別に意義はないと思う。

音楽に関する社会人・学生の意識調査

オ. よくわからない。

IX 古典邦楽（伝統芸能としての日本古典音楽）についておたずねします。

1. この種の音楽に対するあなたの親近感について、次の数字に○をつけて下さい。



2. この種の音楽に対してあなたはどのような感じ（イメージ）をもたれますか。次の語の中からいくつでも選んで○をつけて下さい。

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| ア. なつかしい感じがする。 | ク. 単調な感じである。               |
| イ. 時代遅れの感じがする。 | ケ. 繊細で情趣に富んでいる。            |
| ウ. おもしろい。      | コ. 聞きごたえがある。               |
| エ. おもしろくない。    | サ. 迫力に欠ける。                 |
| オ. 品が良い。       | シ. 西洋クラシック音楽と比較して芸術的に劣らない。 |
| カ. わかりやすい。     | ス. 西洋クラシック音楽と比べて見劣りがする。    |
| キ. わかりにくい。     | セ. とっつきにくい（異和感がある）。        |

3. この種の音楽の社会における現状ないし将来についてあなたはどのように思いますか。

- ア. 日本人としてもっと大事にして、守り育てていくべきだと思う。
- イ. 時代の移り代わりに応じて音楽も変化してゆくものだから、なりゆきにまかせるほかないと思う。
- ウ. よくわからない。

X 日本の現代の音楽家、音楽大学生に対するイメージについてお尋ねします。

〔家族や親戚または交際のある人に音楽家がいる人は（ ）内に○を記入して下さい。（ ）〕

1. 音楽家には文化人として尊敬に値する人が多いと思いますか。
 

ア. 思う。	イ. 思わない。	ウ. どちらとも言えない。	エ. よくわからない。
--------	----------	---------------	-------------
2. 音楽家は人間的にも円満で立派な人が多いと思いますか。
 

ア. 思う。	イ. 思わない。	ウ. どちらとも言えない。	エ. よくわからない。
--------	----------	---------------	-------------
3. 音楽家には人間的に偏った人が多いと思いますか。
 

ア. 思う。	イ. 思わない。	ウ. どちらとも言えない。	エ. よくわからない。
--------	----------	---------------	-------------
4. 上記3. でア、と答えた人は、その偏り方が次のうちのどれだと思いますか。
 

a 社会性に乏しい人が多いと思う。	d 利己的な人が多いと思う。
b 「我」が強い人が多いと思う。	e 偏見のある人が多いと思う。
c 独善的な人が多いと思う。	
5. 音楽大学生と一般大学生とを比較して、次の点であなたはどのように思われますか。
 

音大生は、一般社会常識に	ア. はなはだ欠けている点があると思う。
	イ. いくらか欠ける傾向があると思う。
	ウ. 特に欠けているとは思わない。
	エ. よくわからない。

